

令和3年6月18日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。今日は項目立ての発表案件はありませんけれども、ワクチン接種予約の事業等とコロナの感染症対策について、報道機関の皆さま、そして市民の皆さまに、お願い方々お伝えしたいことがございますのでよろしくお願いいたします。

まずはワクチンの接種の予約についてであります。一昨日の16日から、65歳から74歳の市民の皆さんに接種券の発送をスタートしております。早い方には昨日17日に届いていると思いますし、遅くとも来週の水曜日、23日までにはお手元に届く予定であります。今週の月曜日、14日の予約再開初日は、大変ご不便をお掛けしてしまいましたけれども、現在はスムーズに予約の手続きができています。ワクチンの量、そして、予約枠は十分に確保されておりますので、接種を希望される市民の皆さんは、お手元に接種券が届きましたら、ぜひ予約をお願いしたいというふうに思います。コールセンターのほうは、時間によってつながりにくい状況でありますけれども、ウェブのほうはスムーズに予約ができます。支援窓口も作っておりますのでご利用をお願いしたいと思います。

一方で、6月に入ってから市内でクラスターが5件発生しております。ご承知のとおりでありますけれども、例えば、屋外でのバーベキューの集いのクラスター、カラオケスナックのクラスター、車で長時間移動する際のクラスター、グループホームでのクラスター、そして、大学生同士の会食のクラスターであります。これらのクラスターの感染者の行動を分析してみると、さまざまなことが分かります。普段、飲食を共にしている家族以外の方々とバーベキュー、あるいはマスクを外してしまったの長時間の飲食、密閉空間で長い時間を過ごすなど、いわゆる感染リスクの高い行動に当たる行動が見受けられました。今後、ワクチンの接種は進んでいくとは思いますが、感染自体が収まっているわけではありません。基本的な感染予防の徹底を改めてお願いさせていただきます。

最後にもう一つ、市民の皆さんにお願いです。先ほど申し上げましたクラスターの内、カラオケスナックの35例目と大学生会食の38例目はその名称を公表しております。そういった団体や店舗、ご関係の皆さんへのいわれのない誹謗中傷につきましては、決してなされないように重ねてお願い申し上げます。私からは以上です。

◆司会

それでは早速、幹事社質問のほうに移りたいと思います。朝日テレビさん、よろしくお願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

幹事社の朝日テレビです。新型コロナワクチンの接種について質問させてください。予約システムの一次停止やアクセス集中など、制度設計の課題を指摘する声もありますが、今後、予約システムの改修などをする予定等、お考えありましたらお願いします。

◆市長

はい。予定はございます。私たちが試行錯誤しながら、走りながら考えながら、この事業を進めております。その中で、これまでは、例えば、年齢などで接種券をお届けするタイミングをずらしていくことによって、できるだけ予約のアクションを起こす方が集中しないように調整してきたつもりでしたが、それでも予約の受付の開始直後には、予約サイトやコールセンターがオーバーフローしてしまったり、想定以上に予約の申し込みのペースが早くて、用意した予約の枠が足りなくなってしまうということが起こってしまい、市民の皆さんには大変なご不便をお掛けして申し訳なく思っております。しかし、それらの経験を踏まえて、今後、臨機応変に見直していこうというふうに思っています。

また、自分の接種券はいつ届くのかという、そういう不安からコールセンターに電話をされると、本来は予約受付のコールセンターなんですけれども、接種券がいつ届くのかという、それ以外の電話が入ってしまうことによって、コールセンター自体がつながりにくくなってしまうということもあります。そこで今後は、一つ抜本的な対策として、まず、できるだけ早い時期に全ての対象者、接種対象者の方々に接種券をお届けします。その上で、予約サイトでの入力の際、年齢でフィルターを掛けていくということによって、予約の時期を分散していくという方法に見直していきたいと、目下考えております。これから64歳以下の世代の方々が対象になるわけですけど、この方々は、大半がウェブの予約をご利用いただけるというふうに期待しておりますし、サイトで予約ができるようになるタイミングを、例えば、5歳刻みにしていくとか、さらに細分化してずらしてみるとか、予約状況を見ながら、臨機応変にそのタイミングを変更したりすることによって、これまでのようなトラブルを最小限にしていきたいというふうに考えております。また、接種券が早く届くことによって、接種券がいつ届くのかというお問い合わせ、結構多いんですね、そういうお問い合わせも減ることになります。それがコールセンターの混雑解消にもつながります。一方、接種券がお手元にあることによって、職域で接種していこうとか、学生さんなら大学で接種しようということもできるようになります。このようなシステムの臨機応変な対応によって、市民の皆さんができるだけ混乱するこ

とがないよう準備するとともに、まずは何より、少しでも早く接種券をお届けできるように取り組んでいきたいと思っています。以上です。

◆司会

それではただ今の質問につきまして、関連したご質問をお受けしたいと思います。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。今、接種券を64歳以下も、できるだけ早い時期にお届けするというお話でしたが、これはいつごろをお考えでしょうか。

◆市長

できるだけ早くというふうに思っております。来月ということの一つの目標にしております。

◆NHK

来月。7月上旬、中旬、下旬でいうとどれぐらいの？

◆市長

今、検討中であります。

◆NHK

つまり64歳以下、何歳まで、下は？

◆市長

12歳までですね。

◆NHK

何万人になりますか。

◆市長

お願いします。

◆保健福祉長寿局長

局長の杉山でございます。よろしく申し上げます。今、ちょっとすいません、正確な数字はございませんけれども、12歳、15歳の間の方が多分2万3,000人ぐらいかなと思

いますので、今までの数字を足すと、約40万人になろうかというふうに思っています。また正確な数字は追ってお知らせさせていただきたいと思います。

◆NHK

分かりました。それと、ひとまず接種券を受け取ってアクセスする際に、入力段階でフィルターということですが、受け取った人がいったん取りあえずアクセスしてしまっ
て、はじかれるにしても、アクセスが集中して、ダウンしてしまうということの心配は
ないでしょうか。

◆市長

その心配を解消するために、こういうフィルターを掛けるという理解をお願いします。

◆NHK

フィルターを掛けるにしても、まず、アクセスは可能になるわけですよね。そのアクセ
スが集中してしまうという心配はないですか。

◆市長

広報監からお答えをいただいたほうが分かりやすいかもしれませんね。例えば、1歳刻
みでやるとかいろいろなことを考えていきたいなというふうに思っています。

◆NHK

その先で入力はできなくなるにしても、その手前で、まず、接種券が届いたらアクセス
してみようとなって、そのアクセスが集中してしまっ
てダウンするという心配がないか
ということです。

◆市長

なるほど。いろんなシミュレーションする必要がありますよね。広報監、お願いします。

◆戦略広報監

広報監の柴山です。若干補足をさせていただきます。まず、当然ながらサイトのトップ
ページで、何歳、今どこまでの方がお受け付けできますという形のアナウンスをさせ
ていただくことで、皆さんが受け付けできるのか、できないかという判断ができるよ
うな、分かりやすい表示はさせていただきます。あと、合わせて、もちろんメディアの皆さま
にもご協力いただいて、今どういった形でどこまでご予約が進んでおりますという情報
発信を、市が持っているSNSもありますし、いろんなものを使って告知させていただ
いて、混乱が起きないような対応をさせていただきたいと思っております。

◆NHK

分かりました。結構です。それと、もともと非常に使いづらいという指摘がされたJTBのスパイラルのシステムについて、市長、前回の会見でJTBの責任者に直接会って費用負担、改修費用負担のあり方も含めて協議するというお話をされていましたが、それはその後どうなりましたでしょうか。

◆市長

はい。議論を進めております。そして、もうコンビ連携のワンチームですからね、JTBさんも一生懸命やってくれていると思いますので、今までの経験を踏まえて改善して、少しでも市民の皆さんの目線から、スムーズな予約ができるように協議を続けているところであります。

◆NHK

改修の費用負担については、特にJTBさんにそこを求めるですとか、委託費用から相殺するとか、そういったことはないのでしょうか。

◆市長

これも協議をしておりますけれども、とにかくそんなことでワンチームの結束が乱れてはいけませんので、とにかく今は、この難局を共に乗り切ろうという気持ちで進めております。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆保健福祉長寿局長

すみません、先ほどの人数の報告をさせていただきます。12歳から15歳の方が、先ほどの2万3,000人です。その上の16歳から64歳までの方、この方が38万9,000人いらっしゃいますので、合計すると41万2,000人。約、そのくらいの数になると思います。

◆NHK

分かりました。あと、すみません、もう一つ伺わせてください。先日、予約状況の発表をいただきまして、再開した14日に非常に集中した後は、逆に15、16日と極端に低減していると、予約枠が非常に余っているという状況で、この低減が続くとなると、全然大規模接種会場が埋まらないという事態、ひいては7割の集団免疫を獲得できるのかどうかという懸念も出てくるかと思いますが、その辺りどう捉えていらっしゃいますか。

◆市長

そこが本当に一番難しいところだと私も思っています。本当に、このごろすごい脚光を浴びている行動経済学というのかな、行動心理学というのか、そういうことを読みながら、やっぱり適切に情報発信していかなければいけないと、先ほど申し上げた答弁と重なる部分でありますけれども、そのところはやっぱり経験を積みながら、より適切な情報発信をしていきたいと思っています。

◆NHK

でも、結果的に7月末まで予約自体の手が挙がらなくて、接種率が7割に満たなかつたら5割を切ろうか、それはもう仕方がないということでしょうか。

◆市長

今はもう全力をもって、7月末までに65歳以上の接種を完了したいということで取り組んでおります。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さんお願いします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。64歳以下の接種券の件ですけれども。市長、年齢の刻み方というようなご説明がありましたけれども、例えば、基礎疾患をお持ちの方とか、あるいはエッセンシャルワーカーといいますが、ご職業などで、優先的に接種できるようにということはお考えでしょうか。

◆市長

これも実務的に後ほど答えますけれども、私から申し上げますと、やっぱりいろんな団体、議会も含めて、この方々に優先的にというお話はいただいております。ですので、そういうことが、市民が「ああ、そうだね」と納得してもらえるということであるならば、そういうことも考えていきたいと、より効率的な接種の方法を考えていきたいというふうに思っております。もし補足があれば。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長の杉山でございます。今、ご質問いただいたところですが、例

えば、これまでも高齢者施設の入所者、あるいは従事者を対象にさせていただきました。今後、例えば、障害施設の方々、入所者、それから従事者、それと、現在、余剰ワクチン、当日キャンセル分の対応をさせていただいています、保育士さん、保育教諭、幼稚園の先生、あるいは学校の先生についても検討させていただいているところでございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。予約で使っているシステム、そのJTBのシステムですが、今度から年齢を細かく刻んだりとか、職域を分けたりという話がありましたけれど、そのシステムというのはJTBさんのシステムを使うということになるのですか。

◆市長

大規模集団接種会場で枠を空けましたので、そのシステムを増強するような形を今取っております。少し実務的に補足をしてください。

◆保健福祉長寿局長

実際、JTBのシステムを、今も動いているわけですがけれども、その予約をする中でも、それが年齢の刻みで予約ができるようなことを今考えているところです。

◆中日新聞

それは現行のシステムを増強とかすれば可能ということなのですか。

◆保健福祉長寿局長

そうですね。改修をしていくということになります。

◆中日新聞

職域に関しても？

◆保健福祉長寿局長

職域については、企業さんっていいですかね、そちらのほう为主体となってやっていくというふうに認識しておりますが、こちらのほうは、住民の接種予約についてのお話ということで、ご理解いただければと思います。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

たびたびすみません。静岡朝日テレビです。静岡市のワクチンの接種率が 26.4%ということで、県の平均を下回っているのですが、この数字について、市長、どのように評価しているか教えてください。

◆市長

これから挽回していきたいと思います。

◆静岡朝日テレビ

あと、同じ点ですが、高齢者の人口が、静岡市、県内でも多いと思うのですけれども、静岡市で、接種率の向上が、県全体の接種率向上につながってくるのかなと思うのですが、具体的に、今後どんなふうに関接種率向上に向けて取り組んでいくか、ビジョンというか構想があればお願いします。

◆市長

まず、ビジョンは7月下旬に 65 歳以上の接種を完了するというので、目下それに全力を尽くしているということであり、その手法については先ほど幹事社質問でお答えを申し上げたとおりです。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。先ほど、接種券は一斉に発送することで、職域接種とかそういったところにもつながればという話でしたけれども、例えば、中小企業だと、なかなか人数を集めるのが大変だという実態があったりしますけれども、市のほうから、そういったところを支援したりですとか、大学に働きかけたりですとか、そういうお考えという

のがありますでしょうか。

◆市長

そうですね、企業の皆さんと連携できる部分があれば対応していきたいと思っています。

◆静岡第一テレビ

あとは、12歳から64歳の間で細かく区切っていくという話ですけども、その中での順序ですとか、優先順位というのは、大枠として何か方針はありますでしょうか。

◆市長

目下目下のところですけどもね。もう少し補足があればお願いします。

◆保健福祉長寿局長

今、話があったように、どういうふうな組み立てで予約の階層を上げていくかっていうところ、一つの例としては、年齢をもって、予約ができる幅といいますか、そういうのを組み立てていくのも一つかなというふうに考えております。

◆静岡第一テレビ

特にまだ若いほうからとか、上からとか。

◆保健福祉長寿局長

現状では上からということになろうかなとは思いますが、ただ、他の動き、他市の動きなどでは、「感染者が高いといわれる年齢層を」というようなことがあったりしますので、その辺の状況をちょっと見させていただきながら、決定していくということになろうかなと思っています。

◆市長

目下目下のところですけども、本当に試行錯誤しながら、ここまで経験を積んできましたけれども、「同じ失敗は許されないぞ」ということを職員にも、私自身、指示しておりますし、緊張感を持って対応していきたいというふうに思っています。

◆静岡第一テレビ

最後に1個すいません。先ほど、来月にもという表現をされていましたが、目標としては来月中には発送し終わりたいという意味なのか、始めたいという意味なのか、その辺りはいかがですか。

◆市長

正確に申し上げますと、今の時点ではどういう答えがいいでしょう？

◆保健福祉長寿局長

来月中には発送を終えたいという状況です。

◆静岡第一テレビ

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。このワクチン関係でいかがでしょうか。NHKさんお願いいたします。

◆NHK

すいません、もう一度NHKです。このワクチン接種、静岡市というか、静岡県が全国の中では下位にあるというこの接種率について、知事選挙の中で、岩井茂樹さんは「これは医師不足の問題ではなくて、県が、今の知事が国と連携せず、あと、市町にも寄り添わないことが原因だ」と指摘されています。実際に実務を担う静岡市としても、岩井さんと同じ認識を持たれているのか、県知事の連携不足によるものだという認識かお聞かせください。

◆市長

今、選挙戦中でトップがない状況でありますけれども、実務的には県と市と連携を取りながら、これから一緒になって全国レベルで挽回していきたいというふうに思っております。例えば、岡山県と岡山市も非常に下位のレベルにとどまっていたけれども、いろんな手法を取り組むことによって、だんだん接種率上がっていったという事例もあります。とにかく、まだマラソンでいえば10キロ地点だと、ここから全世代の接種完了に向けて、静岡市、県と連携をして取り組んでいきたいと思っています。

◆NHK

岩井茂樹さんがおっしゃる「ワクチンはあるのに県のほうで目詰まりを起こしている」、あるいは「県が市町に寄り添わないから接種が進まない」というこの主張は、市長も同じ認識でしょうか。

◆市長

私は今日、県を批判したりするつもりは一切ありません。とにかく、先ほど、JTBさ

んとの関係も同じでありますけれども、お互いコミュニケーションをしっかりと取るとい
うことを通じて、ワンチームになってこの難局を乗り越えて、市民、県民の皆さんの期
待と心配に応えていきたいと思っています。

◆NHK

市長、政治的には岩井さんを応援してらっしゃるお立場だと思えますが、この岩井さん
の主張については、必ずしも認識を一にしているわけではないということでしょうか。

◆市長

市長の立場として、県と連携したいということを今日は申し上げさせていただきます。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。それでは。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。たびたびすいません。以前、議長からの要望書提出のときに、議長から
も、市長自身のワクチン接種を、防災とかのトップの観点から早めに、早くしたほうが
いいのではないかという、こういう提言もあったと思うのですが、市長ご自身のお考え
というのは何か変化はありますか。

◆市長

変化はありません。市民の納得感ということが最も大事だろうというふうに思っていま
す。

◆中日新聞

その中では、今の状況ではまだ接種できないという状況ですか。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆中日新聞

分かりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社関連以外のご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。はい、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

はい。すいません、では、桜ヶ丘病院関連のことを伺います。まず、過去の答弁についておたずねしたいのですけれども、平成29年6月定例会で、危機管理統括監の答弁として「JCHOに対しても、市民の皆さまに安心感を持っていただけるよう、津波避難ビルとしての指定や、災害時に使用できるヘリポートの整備などを要請してまいります」という答弁がありました。その後、一昨年令和元年6月定例会では、保健福祉長寿局長からの答弁で「新桜ヶ丘病院への緊急時や災害時の患者の搬送手段として、ヘリコプターの離発着機能を確保することは、本市としても必要であると考えておりますので、JCHOに強く要請していきます」という答弁がありました。同じ答弁の中で、当時の羽根田局長は救護病院についても「引き続き救護病院としての役割も担っていただけるよう、JCHOや桜ヶ丘病院との協議を進めていきたいと考えております」という、こういった答弁がありました。これらのヘリポートおよび救護病院についての答弁の認識は、今も変わらないかどうかお聞かせください。

◆市長

記者のおっしゃるとおり、議会も、市がそう答弁した以上、そういう認識を持っていて、今回6月の議会でそれについて通告をいただいておりますので、今、そのことについて鋭意、答弁を検討しているところであります。

◆NHK

答弁はまた注目してまいります。市としては、新しい桜ヶ丘病院にはヘリポートがないと困るし、救護病院も指定したいという、ここは変わらないということでしょうか。

◆市長

もちろんそういうことを私たちは要請しました。その中で、今、さまざまな総合的な観点からJCHOと議論を進めておりますので、それを踏まえて、一番新しい私どもの見解を議会の場でお伝えしたいというふうに思っています。

◆NHK

ヘリポートについては費用の問題で負担できないということで、もうJCHOで設置しないことを内部決定しているそうです。それは市長もご報告を受けてらっしゃると思い

ます。これは過去の説明等の整合性をどうされるのでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりですね。いろいろＪＣＨＯさんにも取材をされたのかなというふうにも拝察いたしますけれども、そういう形で、さまざまな論点をＪＣＨＯさんと静岡市で、今、議論している途中であります。そういう中で、市はどう考えるのかということについて、今、保健福祉長寿局のみならず、全局連携の下で議論して、そして、答弁につなげていきたいなと思っていますので、本会議の答弁のときに譲りたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

◆NHK

前回の会見でも市民団体の方の質問状への対応について「オール静岡市役所で、細かく回答している。もう納得していただきたい」とおっしゃいました。もし、ヘリポートが、ＪＣＨＯさんがもう決定されているということですが、設置されないのであれば、安心感を持っていただけるよう設置を強く要請するという、この過去の説明が食い違うので、説明のし直しになるのではないのでしょうか。

◆市長

私の信条としてきた、「対立しつつ調和する」ということが大事なんだろうと思います。やはり意見は民主主義ですからいろいろ異なります。それははっきり伝えることが大事だし、また、相手の正しさというかな、意見を聞くということも大事です。書面でいろいろ出していただきました。手法はいろいろあろうかと思っています。

しかし、最終的にはそうやって対立しつつも調和してくということが、私は日本人の信条だと思っていますし、そういう中で、いつか「よし、これで良かった」というふうに、大方の市民の皆さんに思われる日が来ることを私は願っております。調和するまで１年で済む問題もあれば、１０年かかる問題もあるかもしれない、でも、私はそのような心構えで、一つ一つ判断しているつもりです。

◆NHK

今のお答えは、つまり、ヘリポートが設置できなくて、災害時に病院が孤立して、災害医療の機能も果たせなくなっても、それは残念だけれども仕方がないという認識だということでしょうか。

◆市長

そんなことは申し上げておりません。私たちは私たちとして、要請として、先ほど答弁で指摘してくれたような気持ちは持っています。しかしながら、これもＪＣＨＯさんの

立場ということも私たちは今、聞いております。57 病院、全国に系列の病院を持っております。そういう中で、今でさえ、かなり今回の清水の桜ヶ丘病院には、特段の配慮をしてくれているというふうに私は理解しております。そういう中で、どんなところで同意ができるのかということ、ぜひご注目いただきたいと思えます。

◆NHK

別の観点で伺いますと、病院の屋上に設置がもう無理だということであれば、病院本体にこだわらなくても、「近くに市が独自にヘリポートを整備すればいいじゃないか」という議論もありえるかと思えますけれども、それは市長は検討できるのか、いかがでしょうか。

◆市長

いずれにせよ、6月の議会で答弁をいたしますので、それに譲らせてください。

◆NHK

今、この場で、病院本体以外の場所での設置も検討できるのかどうか、お考えいかがですか。

◆市長

先ほど申し上げたとおりであります。記者と同時に議会、やはり市民の代表として改選が終わったばかり、市民の方々からいろいろな声を背負っている議会が初めて開かれます。やはりそこを大事にして、そこに今、記者の問題、議会の方々も共有されている疑問だと思えますので、そこで答えるということ、ぜひ、ご理解いただきたいと思えます。

◆NHK

また、その後、市民への説明も、また質問状への対応も含めて、またやり直すということでしょうか。

◆市長

そういうふうには思っておりません。まずは議会の答えで、市民の皆さんに記者から正確に報道していただけることを期待しています。

◆NHK

分かりました。では、病院はそれでひとまず承りましたが、知事選挙について、もう少しお話を伺わせてください。

もう、明後日投票ですけれども、争点の一つとして、川勝知事が3期12年で、もうかなりの多選になると、支持団体である連合静岡の中からも、懸念点として出ていることですが、市長は、首長は3期12年ぐらいまでが適当ではないかというお考えはお持ちなのでしょうか。

◆市長

今日は市長としての公式の記者会見ですので、そのことについては私、特に申し上げることはございません。

◆NHK

分かりました。もう一つ、岩井さんの今回の立候補に伴って、10月に参議院の補欠選挙が行われます。市長は、ご自身が自民党の中で候補者として取り沙汰されることを期待されていますでしょうか。

◆市長

全く期待していません。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします

◆SBS

SBSです。ワクチン接種について伺わせてください。予約再開当日の混雑であったり、市の担当者の方の「接種後に免疫が下がる」という発言があって、かなり市の状況といえますか、市民の方の注目も集めていらっしゃると思いますけれども、改めて市長として、今、この状況についてどのように思っているのか教えていただけますでしょうか。

◆市長

私自身のところにも、大変いろいろな方々からお叱りのお声をいただいたり、心配の声をいただきました。申し訳ないなというふうに思っています。その私自身の無念さと申し訳なさを糧にして、先ほど申し上げたとおり、これから接種率を高めるような取り組みをワンチームになって、局間連携して、保健福祉長寿局中心に全力を尽くしてまいりたいと思います。

◆SBS

最後に一つだけすいません。7月末までということを目指していらっしゃると思いますが、やはり次、年齢別にというか、予約システムの構築も含めてですけれども、市長としては、それにどのような期待であったりとか、どういうふうに思っているのか教えていただけますでしょうか。

◆市長

やはり静岡市は、人口10万人当たりの感染者数も抑えられています。それは市民の皆さんの日頃の努力のおかげだなというふうに、静岡市長として、すごく感謝の気持ちがあります。ですので、全国的に早く日本でマスクが取れるような、そんな日が来ることを願いながら、私たちの役割を果たしていきたいという思いであります。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で本日の市長の定例記者会見を終了させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。次回は7月8日木曜日の予定となっております。よろしくお願いいたします。